

シラバス

科目名	English Communication I	単位数	3単位	学年・学科	1学年全学科	展開	必修・選択	
教科書名	COMET English Communication I (SUKEN SHUPPAN)	副教	総合英語 be (いいずな書店) 英単語 Bricks 1 (いいずな書店) Hyper Listening Introductory 4th Edition (桐原書店)					
科目の目標	外国語のコミュニケーションにおける見方や考え方を学ぶと同時に、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力や資質の育成を目指す。							
学習内容と進め方	教科書や副教材、ハンドアウトを利用し、5領域を統合的に伸ばすような様々な学習活動を取り入れる。							
学習の留意点	ペアワークやグループワークを多く取り入れ、アウトプット練習の機会を与える。							
月	単元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			評価の基準	評価方法等
				1	2	3		
4	Get Ready!	4	Be動詞、一般動詞 否定文、疑問文	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・適切な動詞を使って、自己紹介や他己紹介ができる。 ・友達に質問したり、質問に答えたりできる。 ・文章を適切な時制になおる。 ・休暇中の経験について、例文を参考にして発表できる。 ・自分の趣味や好きなことを、例文を参考にして意見交換できる。 ・日本の文化を調べ、伝える文章を作る。 ・本文の言語材料を用いて、イラストを描写したり、説明できる。 ・興味のある職業について情報や考えを整理して書ける。 ・自分の好きな店について紹介したり、感想を伝え合ったりできる。 ・自分の学校を海外に紹介する文章が作れる。 ・生活を快適にするテクノロジーや製品を調べ、情報を整理できる。 ・環境に関して自分ができる取り組みを考え、発表できる。 ・自分の住んでいる地域について、何ができるか考え、発表する。 	単語テスト(通年)
		6	動詞の現在形・過去形					ノート・ハンドアウト提出(通年)
5	Lesson 1 From the window of the Shinkansen	10	進行形	○	○			Listening Test(通年)
6	Lesson 2 Miniature Art	10	助動詞	○	○			パフォーマンステスト① 前期考査
7	Lesson 3 Onigiri Goes Overseas	11	不定詞	○	○			
8								
9	Lesson 4 Pictograms	11	動名詞	○	○			パフォーマンステスト②
10	Lesson 5 Morita Yuko	11	that節	○	○			
	Lesson 6 Convenience Stores	11	現在完了形	○	○			
11	Lesson 7 High School Beekeepers	11	受け身	○	○			パフォーマンステスト③ 後期考査
12	Lesson 8 Start farming	10	比較	○	○			
1	Lesson 9 Fashion Waste	10	関係代名詞	○	○		パフォーマンステスト④ 学年末考査	
2								
3	Lesson 10 William and His Windmill				○			
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、パフォーマンステスト・小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。							
評価の観点	観点	趣旨						
	1知識/技能	コミュニケーション I で学ぶ内容において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどが理解できている。また、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
	2思考/判断/表現	コミュニケーション I で学ぶ内容において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身につけている。						
	3主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーション I で学ぶ内容において、背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
評価基準	1知識・技能	A 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 B 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を概ね身に付けている。 C 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能の習得が不十分である。						
	2思考・判断・表現	A 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 B 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることが概ねできる。 C 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりする力が不十分である。						
	3主体的に学習に取り組む態度	A 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図っている。 B 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 C 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲が不十分である。						